

森林の 施業管理

広葉樹林の管理・利用に関する調査

研究の背景・目的

広葉樹林(写真1)は島根県の森林面積の半分以上を占めており、パルプやチップ(写真2)などに利用される価値ある資源です。そのため、広葉樹林を計画的に管理し利用する必要がありますが、現在管理計画を立てる際に使われ、島根県内の広葉樹林蓄積の目安となっている蓄積表と現実林分の値が離れています。

そこで、本研究では県内の広葉樹林を調査したデータを解析して、広葉樹林の蓄積を算出します。



写真1 広葉樹林

研究方法

- ①「森林資源モニタリング調査」の資料を基に蓄積を算出
 - ②過去の毎木調査(写真3)データから蓄積を算出
- ①②をH24年度にまとめた調査結果に追加し、島根県の広葉樹林の蓄積を推定します。

※「森林資源モニタリング調査」とは、H11年から始まった、全国で統一した方法で行われている森林調査です。



写真2 枝などを破砕してチップにする作業

研究状況

H24年度の調査結果では、18齢級を除く2～19齢級について結果を得ました。しかし、調査地の少ない齢級があるため引き続きH25年度も調査を行います。

※「齢級」とは5年を1齢級とする木の年齢の数え方です。(例：5齢級=21～25年生の林を指します)



写真3 毎木調査の様子

研究成果の活用・今後の研究計画

島根県の広葉樹資源の目安である「島根県ヘクタール当たり標準蓄積表」の改訂をおこなうことで、より計画的な伐採・利用が期待されます。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 森林保護育成科
研究担当者 : 岩田 若奈 (いわた わかな)

問い合わせ先 : 0854-76-3820
E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : 広葉樹林の管理・利用に関する調査 (研究期間 : H25)

